

平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 マーベラスエンターテイメント
 コード番号 7844 URL <http://www.mmv.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 中山 晴喜

問合せ先責任者 (役職名) 取締役

(氏名) 山角 信行

TEL 03-5769-7447

四半期報告書提出予定日 平成23年2月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	5,764	△12.7	409	—	364	—	354	—
22年3月期第3四半期	6,601	△17.5	△1,208	—	△1,243	—	△1,278	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	2,904.27	—
22年3月期第3四半期	△10,807.51	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	4,291	548	12.8	4,498.88
22年3月期	4,713	193	4.1	1,583.30

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 548百万円 22年3月期 193百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
23年3月期	—	0.00	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,800	△17.9	200	—	130	—	120	—	983.61

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 有

4. その他（詳細は、【添付資料】P. 6「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年3月期3Q 123,380株 22年3月期 123,380株

② 期末自己株式数 23年3月期3Q 1,380株 22年3月期 1,380株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年3月期3Q 122,000株 22年3月期3Q 118,322株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)P. 5「1. (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. その他の情報	6
(1) 重要な子会社の異動の概要	6
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	6
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書	8
【第3四半期連結累計期間】	8
【第3四半期連結会計期間】	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) セグメント情報	12
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	14

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成22年4月1日～平成22年12月31日）における当社グループの連結業績は、売上高5,764百万円（前年同期比12.7%減）、営業利益409百万円（前年同期は営業損失1,208百万円）、経常利益364百万円（前年同期は経常損失1,243百万円）、第3四半期純利益354百万円（前年同期は純損失1,278百万円）となりました。

売上高におきましては、音楽映像事業における「プリキュア」シリーズや、デジタルコンテンツ事業における「牧場物語 ふたごの村（DS）」など、主力シリーズを中心に販売実績が好調に推移したものの、デジタルコンテンツ事業において発売タイトル数の絞込みを行ったことや、海外戦略の見直しに伴い欧州地域での自社発売を行っていた英国子会社Rising Star Games Limitedの当社保有全株式を平成22年1月に売却したこと、舞台公演事業において計上公演数が減少したこと等により、前年同期と比較して減少いたしました。

利益におきましては、デジタルコンテンツ事業において開発中止に係る費用245百万円を計上したものの、前期に行ったコンテンツ資産の評価損計上がなかったことや、株式譲渡した海外子会社の損失分が減少したことに加えて、各事業における主力コンテンツの販売実績が好調に推移したことや、効率化の推進による採算性の向上と各種固定費の圧縮等により、黒字転換いたしました。

尚、平成22年12月1日をもって当社の連結子会社である株式会社アートランドのアニメーションの企画・制作事業を会社分割して新設会社に承継し、さらに同日付で新設会社の全株式を譲渡しております。

事業の種類別セグメントの業績を示すと、次の通りであります。

尚、第1四半期連結累計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

これと併せて、従来、事業の種類別セグメント情報の「消去又は全社」の項目に含めていた営業費用のうち、役員・執行役員に係る人件費はそれぞれの各管掌セグメントへと配賦し、地代家賃及び水道光熱費については人頭基準にて各セグメントへ配賦しております。

また、以下文中の前年同期比較に当たっては、前第3四半期連結累計期間の実績を、変更後の基準に遡及して集計した後、行っております。

①音楽映像事業

音楽映像事業におきましては、アニメーションを中心とした優良コンテンツの音楽・映像商品（パッケージソフト）化とコンテンツの企画立案から二次利用までを行うマスターライセンス（映像著作権）保有作品の製作を行っております。

まず、音楽分野におきましては、「プリキュア」シリーズの企画音楽が好調に推移した他、新規音楽配信サイトへのコンテンツ供給が進み、音楽配信収入も大きく伸長しました。また、アーティスト作品では、新たに「佐々木喜英」がデビューを果たした他、専属アーティスト「古川雄大」、「中河内雅貴」、「vistlip」のCD・ライブDVD等を編成いたしました。

次に、映像分野におきましては、前期より引き続き「ミュージカル『テニスの王子様』」関連DVD、

「家庭教師ヒットマンREBORN!」、「フレッシュプリキュア!」、「遊☆戯☆王5D's」、「真・恋姫†無双」、「11eyes」等の映像商品化を行った他、新たに「ハートキャッチプリキュア!」、「いちばんうしろの大魔王」、「真・恋姫†無双～乙女大乱～」、「祝福のカンパネラ」、「オオカミさんと七人の仲間たち」等の映像商品化を行いました。特に「ミュージカル『テニスの王子様』」において1stシーズンの完結及び2ndシーズンの開幕に伴う活況により関連DVDの受注が好調に推移したことに加え、「プリキュア」シリーズにおいてTVシリーズ・新作映画のDVDやシリーズ初となるブルーレイ商品の受注が好調だった他、映画の配分収入が拡大しました。

これらの音楽・映像各コンテンツの好調な実績に加えて、音楽映像事業全体として組織の合理化等による固定費の圧縮に努めたこと等により、売上高は2,778百万円（前年同期比3.2%増）、セグメント利益は526百万円（前年同期比47.0%増）となりました。

②デジタルコンテンツ事業

デジタルコンテンツ事業におきましては、家庭用ゲーム機向けソフト及びオンラインゲームを中心としたデジタルエンターテイメントコンテンツの企画・開発・発売を行っております。

まず、家庭用ゲーム機向けソフト分野については、国内において、当社主力シリーズの新作「牧場物語 ふたごの村 (DS)」、「NO MORE HEROES 英雄たちの楽園 (PS3/Xbox360)」、「NO MORE HEROES 2 DESPERATE STRUGGLE (Wii)」、版権タイトル「一騎当千 CROSS IMPACT (PSP)」、「Fate EXTRA (PSP)」の6タイトルを発売しました（前年同期は16タイトル発売）。また、海外向けには、「ARCRISE FANTASIA (Wii 北米向け/邦題：アークライズ ファンタジア)」、「HARVEST MOON: Grand Bazaar (DS 北米向け/邦題：牧場物語 ようこそ!風のバザールへ)」、「NO MORE HEROES 2 DESPERATE STRUGGLE (Wii 欧州向け)」、「NO MORE HEROES: Heroes' Paradise (PS3 欧州・北米向け/邦題：NO MORE HEROES 英雄たちの楽園)」等をライセンスしました。特に、「牧場物語 ふたごの村 (DS)」については、前作実績を大きく上回り累計出荷20万本に迫るヒットとなった他、「Fate EXTRA (PSP)」も累計出荷10万本を超えるヒットとなりました。一方で、PS3・Xbox360向けに開発着手していた大作RPGタイトルについて今後の市場環境を鑑みて開発を中止することを決定し、開発中止に係る費用として245百万円を売上原価に計上いたしました。

次に、オンラインゲーム分野については、当社初となるPC向けブラウザゲームとして「みんなで牧場物語」のオープンサービスを平成22年11月25日に開始し、サービス開始より順調に会員を獲得しております。しかしながら、お客様の満足度を高めるため、より快適な動作環境の実現に向けたシステムの改善を優先し、本格的な課金サービスの導入を遅らせた結果、本格的な収益化には至っておりません。その一方で、海外の一部地域における「みんなで牧場物語」の運営権の売却に成功し、ライセンス収入を獲得しました。また、平成22年12月1日には、「ブラウザ一騎当千 (PCブラウザ)」のオープンサービスを開始し、会員獲得及び課金状況ともに計画を上回る好調な推移となりました。

売上高においては、家庭用ゲーム機向けゲームソフト分野の戦略見直しに伴い、国内発売タイトルの絞込みと英国子会社Rising Star Games Limitedの当社保有全株式を平成22年1月に売却したことが主因となり前年同期と比べて減少いたしました。一方、利益面においては、開発中止に係る費用の計上があったものの、前期に行ったコンテンツ資産の評価損計上がなかったこと、株式譲渡した海外子会社の損失分が減少したことに加えて、国内で発売した新作の採算性が改善したこと、組織の合理化等による固定費の圧縮を行ったこと等により利益改善いたしました。

この結果、売上高は2,250百万円（前年同期比25.8%減）、セグメント利益は89百万円（前年同期は

セグメント損失1,311百万円)となりました。

③舞台公演事業

舞台公演事業におきましては、漫画やアニメ、ゲームの人気作品を原作にした興行ビジネスを展開しております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、平成21年12月から平成22年3月にかけて公演した「ミュージカル『テニスの王子様』 The Final Match 立海 Second feat. The Rivals」の後半22公演分、平成22年4月に公演した「ミュージカル『エア・ギア』 vs. BACCHUS Top Gear Remix」10公演分、平成22年5月に公演した「ミュージカル『テニスの王子様』 コンサート Dream Live 7th」11公演分、平成22年8月に公演した「マリア・マグダレーナ来日公演『マグダラなマリア』～マリアさんの夢は夜とかに開く！魔愚墮裸屋、ついに開店～」20公演分、合計63公演分の実績を計上いたしました（前年同期は110公演分の実績計上）。「ミュージカル『テニスの王子様』」の1stシーズンが平成22年5月で完結し、前年同期には計上されていた夏の公演の開催がなかったため、計上公演数が大幅に減少し減収となりました。一方、利益面においては、開催地の適正な選定による効率運営が実現したことに加え、1stシーズン完結に伴う公演の活況により観客動員数及び物販売上が好調に推移し、前年同期と比較して利益率が改善いたしました。

この結果、売上高は735百万円（前年同期比16.6%減）、セグメント利益は90百万円（前年同期比88.5%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

流動資産は前連結会計年度末に比べて1.9%増加し、3,962百万円となりました。これは主として、現金及び預金が1,056百万円増加したことなどによるものです。

固定資産は前連結会計年度末に比べて60.0%減少し、329百万円となりました。これは主として、投資その他の資産が440百万円減少したことなどによるものです。

この結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べて9.0%減少し、4,291百万円となりました。

(負債)

流動負債は前連結会計年度末に比べて22.4%減少し、3,452百万円となりました。これは主として、買掛金が240百万円減少したことなどによるものです。

固定負債は前連結会計年度末に比べて299.4%増加し、289百万円となりました。これは主として、長期借入金が増加したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて17.2%減少し、3,742百万円となりました。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末に比べて184.1%増加し、548百万円となりました。これは主として四半期純利益354百万円の計上により、利益剰余金が増加したためです。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前年同期と比べて1,056百万円増加し、1,931百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は、974百万円（前年同四半期連結累計期間に使用した資金は289百万円）となりました。主に税金等調整前四半期純利益358百万円及びたな卸資産の減少506百万円などによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は、35百万円（前年同四半期連結累計期間に使用した資金は35百万円）となりました。主に連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出49百万円などによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により得られた資金は、162百万円（前年同四半期連結累計期間に得られた資金は758百万円）となりました。主に長期借入による収入300百万円などによるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の連結業績予想につきましては、第3四半期累計期間の実績を踏まえ、平成22年9月27日に公表いたしました業績予想数値から、売上高・営業利益・経常利益・当期純利益をそれぞれ上方修正しております。詳細につきましては、本日公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

① 「資産除去債務に関する会計基準」等の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益又は経常利益はそれぞれ2,338千円、税金等調整前四半期純利益は5,456千円減少しております。

② 「連結財務諸表に関する会計基準」の適用

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目を表示しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,931,190	874,509
売掛金	508,140	786,366
製品	5,505	6,125
仕掛品	160,964	240,088
映像コンテンツ	87,321	156,469
デジタルコンテンツ	1,074,209	1,539,492
原材料及び貯蔵品	25,187	34,299
その他	178,057	261,014
貸倒引当金	△8,354	△8,535
流動資産合計	3,962,222	3,889,832
固定資産		
有形固定資産	101,413	132,078
無形固定資産	29,260	52,785
投資その他の資産	198,419	638,772
固定資産合計	329,093	823,635
資産合計	4,291,315	4,713,468
負債の部		
流動負債		
買掛金	223,121	463,483
短期借入金	1,920,000	2,050,000
1年内返済予定の長期借入金	12,200	8,004
未払印税	639,518	866,278
未払法人税等	7,498	5,303
賞与引当金	17,050	30,057
返品調整引当金	—	1,738
その他	633,406	1,022,908
流動負債合計	3,452,795	4,447,774
固定負債		
長期借入金	287,800	65,993
その他	1,857	6,538
固定負債合計	289,657	72,531
負債合計	3,742,452	4,520,306
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,128,472	1,128,472
資本剰余金	1,129,991	1,129,991
利益剰余金	△1,679,004	△2,033,325
自己株式	△27,726	△27,726
株主資本合計	551,732	197,412
評価・換算差額等		
為替換算調整勘定	△2,869	△4,250
評価・換算差額等合計	△2,869	△4,250
純資産合計	548,863	193,162
負債純資産合計	4,291,315	4,713,468

(2) 四半期連結損益計算書

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	6,601,300	5,764,683
売上原価	5,952,046	4,232,993
売上総利益	649,253	1,531,689
販売費及び一般管理費		
従業員給料及び賞与	366,887	248,425
貸倒引当金繰入額	—	169
賞与引当金繰入額	24,238	17,050
広告宣伝費	763,027	412,324
その他	703,891	443,940
販売費及び一般管理費合計	1,858,044	1,121,910
営業利益又は営業損失(△)	△1,208,791	409,778
営業外収益		
為替差益	6,335	—
受取手数料	—	1,900
その他	1,840	1,615
営業外収益合計	8,175	3,515
営業外費用		
支払利息	39,444	36,593
為替差損	—	12,122
その他	3,456	6
営業外費用合計	42,900	48,721
経常利益又は経常損失(△)	△1,243,516	364,572
特別利益		
貸倒引当金戻入額	2,191	350
その他	204	—
特別利益合計	2,395	350
特別損失		
固定資産売却損	—	1,776
固定資産除却損	3,929	1,230
減損損失	47,716	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	3,118
特別損失合計	51,646	6,124
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,292,767	358,797
法人税、住民税及び事業税	3,098	4,477
少数株主損益調整前四半期純利益	—	354,320
少数株主損失(△)	△17,097	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,278,768	354,320

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
売上高	2,253,448	1,199,796
売上原価	2,594,555	927,359
売上総利益又は売上総損失(△)	△341,106	272,436
販売費及び一般管理費		
従業員給料及び賞与	98,349	69,733
貸倒引当金繰入額	7,099	—
賞与引当金繰入額	24,238	15,410
広告宣伝費	271,274	100,898
その他	209,070	144,835
販売費及び一般管理費合計	610,032	330,878
営業損失(△)	△951,139	△58,441
営業外収益		
為替差益	16,360	4,002
受取手数料	—	700
その他	514	133
営業外収益合計	16,875	4,836
営業外費用		
支払利息	15,390	11,822
その他	18	6
営業外費用合計	15,409	11,828
経常損失(△)	△949,673	△65,434
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	483
特別利益合計	—	483
特別損失		
減損損失	47,716	—
特別損失合計	47,716	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△997,390	△64,950
法人税、住民税及び事業税	1,472	2,412
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△67,363
少数株主利益	813	—
四半期純損失(△)	△999,675	△67,363

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,292,767	358,797
減価償却費	89,699	53,420
減損損失	47,716	—
映像コンテンツ償却額	447,690	518,052
のれん償却額	24,104	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△37,524	△13,007
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△2,191	△180
返品調整引当金の増減額(△は減少)	4,917	△1,622
受取利息及び受取配当金	△69	△18
支払利息	39,444	36,593
デジタルコンテンツ評価損	728,035	—
固定資産売却損益(△は益)	△204	1,776
固定資産除却損	3,929	1,230
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	5,456
売上債権の増減額(△は増加)	107,457	262,598
たな卸資産の増減額(△は増加)	△449,408	506,489
仕入債務の増減額(△は減少)	△33,227	△240,358
未払金の増減額(△は減少)	65,036	△342,514
未払印税の増減額(△は減少)	△12,896	△226,759
未払消費税等の増減額(△は減少)	△4,475	65,093
その他の流動資産の増減額(△は増加)	121,630	90,970
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△133,017	△102,575
その他	△2,962	1,351
小計	△289,081	974,792
利息及び配当金の受取額	69	18
利息の支払額	△30,527	△40,082
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	66,824	△4,586
営業活動によるキャッシュ・フロー	△252,715	930,142
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△80,949	△4,453
有形固定資産の売却による収入	3,500	6,426
無形固定資産の取得による支出	△6,058	△4,265
敷金及び保証金の差入による支出	△88,347	—
敷金及び保証金の回収による収入	136,240	16,045
貸付けによる支出	△1,900	—
貸付金の回収による収入	2,480	300
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	—	△49,894
投資活動によるキャッシュ・フロー	△35,035	△35,841

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	2,970,320	4,260,000
短期借入金の返済による支出	△2,384,928	△4,390,000
長期借入れによる収入	80,000	300,000
長期借入金の返済による支出	△404,002	△5,336
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△1,936	△1,789
株式の発行による収入	499,865	—
配当金の支払額	△675	△54
財務活動によるキャッシュ・フロー	758,642	162,819
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8,140	△439
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	462,752	1,056,681
現金及び現金同等物の期首残高	1,109,020	874,509
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,571,773	1,931,190

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	音楽映像 事業 (千円)	デジタル コンテンツ 事業 (千円)	舞台公演 事業 (千円)	計 (千円)	消去又 は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	2,716,726	3,032,066	852,506	6,601,300	—	6,601,300
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,512	—	—	3,512	(3,512)	—
計	2,720,238	3,032,066	852,506	6,604,812	(3,512)	6,601,300
営業利益又は営業損失(△)	396,598	△1,232,480	68,143	△767,738	(441,052)	△1,208,791

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業の主な製品又は事業の内容

- (1) 音楽映像事業……………DVD、音楽CD、音楽原盤制作等
- (2) デジタルコンテンツ事業…………ゲームソフト、PCソフト
- (3) 舞台公演事業……………舞台公演

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	日本 (千円)	イギリス (千円)	アメリカ (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	5,936,380	603,136	61,783	6,601,300	—	6,601,300
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	209,322	—	—	209,322	(209,322)	—
計	6,145,703	603,136	61,783	6,810,623	(209,322)	6,601,300
営業損失(△)	△620,334	△116,834	△20,996	△758,166	(450,624)	△1,208,791

【海外売上高】

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	欧州	北米	アジア	その他の地域	計
I 海外売上高(千円)	816,505	221,455	2,597	73,393	1,113,951
II 連結売上高(千円)	—	—	—	—	6,601,300
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	12.4	3.4	0.0	1.1	16.9

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理的接近度によっております。
 2 本国以外の区分に属する主な国又は地域
 (1) 欧州……イギリス、フランス、ドイツ、イタリア
 (2) 北米……アメリカ
 (3) アジア……韓国、台湾
 3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

【セグメント情報】

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社の事業については、取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社の各事業部・各事業会社が取り扱う製品・サービスを集約した「音楽映像事業」、「デジタルコンテンツ事業」及び「舞台公演事業」の3つを報告セグメントとしております。

「音楽映像事業」は、アニメーションを中心とした音楽・映像商品(パッケージソフト化)とコンテンツの企画立案から二次利用までを行うマスターライセンス(映像著作権)保有作品の製作・販売を行っております。

「デジタルコンテンツ事業」は、家庭用ゲーム機向けソフト及びオンラインゲームを中心としたデジタルエンターテイメントコンテンツの企画・開発・発売を行っております。

「舞台公演事業」は漫画やアニメ、ゲームの人気作品を原作にした興行ビジネスを中心に展開しております。

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額
	音楽映像事業	デジタルコン テンツ事業	舞台公演事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,778,967	2,250,437	735,277	5,764,683	—	5,764,683
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,778,967	2,250,437	735,277	5,764,683	—	5,764,683
セグメント利益	526,511	89,786	90,680	706,977	△297,198	409,778

(注) 1 セグメント利益の調整額△297,198千円は、セグメント間取引消去6,417千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△303,616千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。